

カナダでの INTAPT コースに参加して

長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構 高橋 優二

この度、カナダのトロント大学で開催された INTAPT (Interprofessional Applied Practical Teaching and Learning in the Health Professions) コースに参加させて頂く機会を得た。INTAPT コースは医学教育の権威であるトロント大学の Helen Batty 教授が主催する医学教育のプログラムで、医療教育開発センターの浜田久之教授も international consultant として参加している。

今回は、自分以外に、長崎大学病院から同級生の角川先生、佐世保総合病院の森内先生と 3 人で参加、それに福井大学の先生も 1 名参加するとの事で、英語に少し不安がある自分にとって心強かった。

このコースは 10 月と 3 月の 2 回、各 1 週間開催される。10 月のコースの前には、このコースでの自分の学習目標である Learning contract の作成と、指定された文献の事前学習が要求される。10 月のコースでまず感じたのは、授業は単なる講義ではなく、その時々でペアや small group を作り、discussion する事が非常に多いという事だ。また、その内容も医学教育に関する事だけでなく、おいしいチキンスープの作り方を皆で効果的にプレゼンするなど、参加者の興味を引くようになっている。ただ、勿論これは英語の discussion なので、我々日本人にとって少し厳しい時間だった。また 1 週目には、成人教育理論を応用してどのようにカリキュラムを発展させるかについて、プレゼンする機会があった。ここで新鮮だったのは、お互いがお互いのプレゼンを評価するという事だった。peer review というこの手法はかなり重要視されているようだった。

何とか 10 月の 1 週間が終わったが、3 月のコースまでに様々な課題がだされた。そのなかでも、一番大変なのは、3 月にワークショップを自分達で開催するという事だ。自分は、カナダの先生二人とチームを組み、3 人で curriculum development についてのワークショップを開催する事となった。カナダと日本なので、お互いの連絡はメールで行い、それぞれの仕事を割り当てられた。また、個人的な課題では、10 月のコースでプレゼンした成人教育理論に関する major paper の作成、ポスター作製、その他にも、自分の授業評価、医学教育に関する教科書の book review 等、盛りだくさんであった。

何とか準備をすすめ、3 月のコースに臨んだ。3 月のコースは、通常の授業よりも各チームが主催する workshop やポスター発表が主で、2 回目という気楽さからか、10 月より楽しんで参加する事ができた。帰国後の現在は最後の課題であるポートフォリオに取りかかっている。参加しての感想は、正直かなり大変だったけど、やり遂げた後の達成感はひとしおである。是非今回学んだ事を今後の医学教育にいかしていきたいと思っている。最後になりますが、このような貴重な経験をさせて頂いた新鳴滝塾の方々に感謝致します。